

人が人と出会うということ

伊予市立伊予中学校 担当教科/英語

足立 さち

●実践教科:総合的な学習・学級活動 ●時間数:2時間 ●対象学年:中学1年生 ●対象人数:32名

授業実践のねらい

- モンゴルについて知り、外国に関心を持つ。
- 人との出会いが自分の人生に大きな影響を与えることを実感し、自分の生活をふりかえる。

授業実践の構成

時間	テーマ・ねらい	主な学習活動	使用教材等
第1時	【モンゴルについて知ろう】 モンゴルについて知ると共に日本との関係を知る。	(1) モンゴルについて簡単な知識を伝える。 (2) モンゴルのYES・NO クイズをする。 (3) クイズの答え合わせをしながら、モンゴルの生活や様子を紹介する。 (4) 今日の感想を発表する。	(1)(3) パワーポイント (資料2) (2) YES・NO クイズカード (資料1)
第2時	【人が人と出会うということ】 人との出会いが自分の人生に影響を与えていることを実感し、自分の生活をふりかえる。	(1) 映画『プージェー』の一部を観る。 (2) プージェーの夢の変化に焦点を当て、関野さんとプージェーとの関係を考える。 (3) 2人の関係のような学級にするためにはどうすべきか話し合う。	(1) テレビ DVD・PC (3) ワークシート

授業の詳細

第1時 モンゴルについて知ろう。

モンゴルについてパワーポイントを使って面積や位置、人口などの簡単な知識を確認する。

グループを作りYES・NO クイズをする。資料1

- ①モンゴルの1月の平均気温は10℃である。.....NO→⑥へ
- ⑥モンゴルでは人口より家畜の数の方が多い。.....YES→②へ
- ②モンゴルでは4つの声を同時に出すことができる。.....NO→⑨へ
- ⑨モンゴルの人たちは伊予中の教室より小さな家で家族と暮らしている。.....YES→⑩へ
- ⑩モンゴルでは牛の肉を主食として食べる。.....NO→③へ

- ③モンゴルでは手のひら1杯もの水で手をきれいに洗う。.....YES→⑦へ
- ⑦モンゴルではしょっちゅう津波が起こる。.....NO→⑤へ
- ⑤東日本大震災が起こった、3・11。他国で一番早く日本への連絡を入れたのはモンゴルだった。...YES→⑧へ
- ⑧モンゴルの学校は午前中で終わる。.....YES→④へ
- ④モンゴルの人口の半分はウランバートルに住んでいる。.....YES→①へ



面積や位置などをパワーポイントを使って説明



グループに分かれてクイズをする様子

YES・NO クイズの答え合わせをしながら、生徒にモンゴルの生活や常識、街の様子や問題などについて映像や写真を見せて説明する。資料2



パワーポイントや実物をつかって答え合わせをする



最後にこの授業での感想を発表する。

生徒の反応

日本との違いがわかってよかった。
モンゴル人が水を大切にしていると知って驚いた。私も水を大切にしないといけないと思った。
家畜の数がとても多いのでびっくりした。

第2時 人が人と出会うということ

過程	学習内容と活動	支援(●)と評価(☆)	資料
活動の開始 5分	○プージェーのインタビューを観て内容について考える。 ・何歳くらい。 ・どんな暮らしをしているか。 ・何になりたいか。		プロジェクター PC DVD

過程	学習内容と活動	支援(●)と評価(☆)	資料
活動の展開 35分	<p>○『映画プージェー』の予告編をみる。 ・日本人が出てくるか。 ・どんな様子がみられたか。</p> <p>○『映画プージェー』の登場人物を確認する。</p>  <p>人物は絵をかくて説明する</p> <p>○プージェーのインタビューをみて夢がなぜ変わったのかを理解する。</p> <p>○自分たちの学級での人間関係についてふりかえる。</p> <p>○なぜ深いかかわりができていないのか考える。(グループ→発表)</p>  <p>話し合いの様子</p> <p>○プージェーと関野さんのように深い関わりになるためにはどうすればいいか考える。(個人→グループ→発表)</p>	<p>●DVDを見る観点を明確にし、夢が変わったことに着目させる。 ☆人との出会いが自分の人生に大きな影響を与えることを実感する。</p> <p>●意見が出なかった場合、助言し生徒に考えさせる。 ☆関わり合いを深めるための方法がわかったか。</p>	<p>プロジェクター PC DVD</p>
活動のまとめ 5分	○次回の内容を聞く。		

【所感】

第1時を終えて、モンゴルの暮らしや格差問題について知識を詰め込んでいたので、生徒は映画『プージェー』を観てすぐにモンゴルでの話であるとわかった。

関野さんとプージェーの出会いによって、プージェーの夢は変わるが、変わったところだけを部分的に見せるよりも、変わったきっかけなどにもっと焦点を当て、道徳として授業を行うのもよかったかもしれないと感じた。
夢に無理矢理つなげようとするあまり、少し無理な流れの授業となってしまった。

授業実践を終えて(成果と課題)

せっかくモンゴルに行かせていただいたので、モンゴルについて少しでも興味や関心をもつきっかけにしたかった。この授業の合間にも、文化祭においてモンゴル展や研修報告の発表をさせていただき、実際に馬頭琴やホーミーなどの伝統的な文化にも実際のものを見る機会があったのはよかった。

ゴールを先に設定し、モンゴルを身近に感じてほしいあまり、最後に夢について考えるようもっていかうとしてしまって、流れが不自然になってしまった。それは、第2時でのプージェーと関野さんの関係のような学級にしていこうのために、どうすべきかという内容の話し合いにおいて、2人の関係がどうやって築かれてきたのかを明確に示せなかったところにも違和感を感じさせてしまったと思う。これから、国際理解教育を授業の中に導入するときに、生徒がどのような反応をするか予想を細かく立てたり、事前に客観的にみていただける機会を作っていこうと思う。

しかし、以前と比べて生徒たちはモンゴルのことについて話すより興味を示したり、海外のことにも関心をもつ機会は増えたと思う。3学期には、夢の絵を描き、それをモンゴルに送る予定をしている。生徒はそれについてとても楽しみにしており、自分の知らない世界とのつながりにも興味を抱いている生徒は多いことがわかった。これからの英語の授業などにおいても積極的に外国のことについても、興味・関心を抱くような内容を盛り込んでいけたらいいと感じさせていいただくことができた。

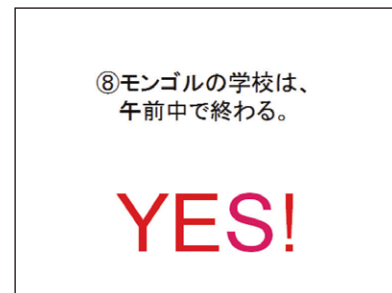
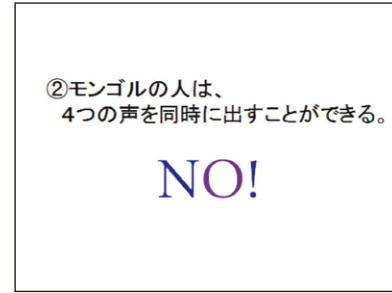
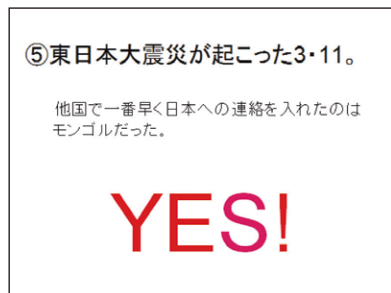
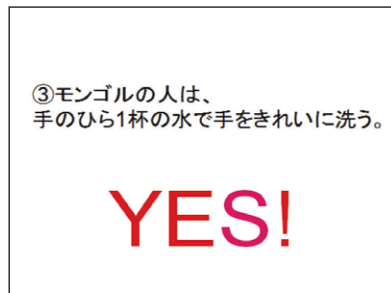
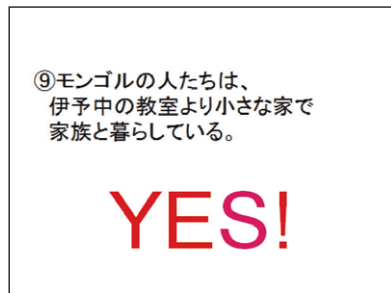
今後とも、国際理解教育について考える自分自身への新しい出会いができた研修だった。

使用教材

【資料1】YES・NO クイズ

①ウランバートルの1月の平均最低気温は、10℃である。	②モンゴルの人は4つの声を同時に出すことができる。	③モンゴル人は、手のひら1杯の水で手をきれいに洗う。	④モンゴルの人口の半分はウランバートルに住んでいる。
YES! → ②へ NO! → ⑥へ	YES! → ⑩へ NO! → ⑨へ	YES! → ⑦へ NO! → ⑧へ	YES! → ①へ NO! → ④へ
⑤東日本大震災が起こった3・11。他国で一番早く日本への連絡を入れたのはモンゴルだった。	⑥モンゴルでは、人口より家畜の数が多。	⑦モンゴルでは、しょっちゅう津波が起こる。	⑧モンゴルの学校は、午前中で終わる。
YES! → ⑧へ NO! → ④へ	YES! → ②へ NO! → ⑩へ	YES! → ①へ NO! → ⑤へ	YES! → ④へ NO! → ③へ
⑨モンゴルの人たちは、伊予中の教室より小さな家で家族と暮らしている。	⑩モンゴルでは、牛の肉を主食として食べる。		
YES! → ⑩へ NO! → ②へ	YES! → ⑥へ NO! → ③へ		

【資料2】パワーポイント<抜粋>



その他の取り組み

本校の文化祭において、研修報告の発表とモンゴル展を実施した。モンゴル展においては、日本での日常生活と違う部分や同じ部分、そしてモンゴルを身近に感じられるような写真を展示した。また、モンゴルの景色の写真を集めたものを展示したり、親日国であることや震災への対応なども伝える文章を展示した。実際の馬頭琴や民族衣装などに触れることで、関心を持ってもらえたように思う。また、保護者の方々にも来ていただき、普段触れることのできない体験してもらえた。

そしてJICA's world など置くことで、他国への興味関心を深められるような場所になるように努めた。
改善点としては、この展示会の開催にあたって、来ていただいた方に感想等をもらうスペースを設けておけばよかった。



モンゴル展での様子



参考資料

・「プージェー」puujee 制作委員会 2006年

二岡 幸
報告書 ①

角野 由佳
報告書 ②

鼻崎 吉則
報告書 ③

川原 恵子
報告書 ④

足立 さち
報告書 ⑤

井上 省吾
報告書 ⑥